

可能性は世界に広がる

校長 武井 正明

Tsubame English Speech Contest 先週 14 日燕市文化会館大ホールで Jack & Betty プロジェクト、燕市親善大使選考の一環として行われた。今夏は 5 年ぶりにアメリカミシガン州に中学生 1 人、高校生 3 人がホームステイしてきた。因みにその費用は燕市が全額負担すると聞いた。これからの若い人たちへの燕市の期待の大きさが窺える。

日本語の発表でも緊張するのに、総て英語、しかも 20 以上ある文をほぼ暗記し臨むという、相当な準備と努力を要するコンテストである。

今回は、小 6 の女子児童を含む 14 人が挑んだ。わが吉中からも 1 年生の三人娘と 2 年男子の計 4 人が出場した。

発表者の生徒たちは、いずれも発音が素晴らしく、身振り手振りも交え、表情豊かに自分の考えを表現した。

吉中生たちの題名は「My wish delivered to the future (未来へ届け私の願い)」「My wish (私の願い)」「Dreams and ideas (夢とアイディア)」「A town that is friendly to the elderly (お年寄りにやさしいまち)」各々の視点からの思いが込められている。

恥ずかしながら、閉会式での審査委員長の講評をお聞きして、やっとそれぞれの発表内容の一部がわかった始末。学生時代にちょっと勉強した程度の素人にとっては、とんでもなくレベルの高いスピーチコンテストであったというわけだ。

なかでも吉中 2 年生の彼には驚かされた。

彼と初めて話したのは校長室掃除の時間。ちょっとはにかみながら、静かに箒で床を掃いていた。どうやら自分から積極的に話しかけるタイプではなさそうだ。彼の別の一面を見たのが、秋の卓球部県大会出場を賭けた団体戦である。チームの皆とハイタッチしながら笑顔を浮かべ、プレーは真剣そのもの。彼の新たな個性に触れた気がした。



それが今度はどうだ。身振りを交えながら流暢な発音でペラペラ英語を喋っている。その姿を見ながら、私の中の、これまでの彼のイメージがぶつかり合って、どれが本当の彼なのか、広がりすぎてしまった。

全部本当の彼なのだ。実に様々な才能があるのだなあ…。彼の夢への道は、まだ始まったばかりだ。今度はどんな一面を発見できるのか、これからも目が離せない。

まず挑戦しようと思いついた瞬間で、既に出場した 4 人は前進している。すべてがプラスだ。そして、君たちの可能性は無限だ。夢に向かって、これからも頑張れ〜っ!!